

て極めて少ないのは何故でありましょうか。又敬介の青洲先生の伝書の中にも乳巖手術の術式が含まれていないのは何故でしょうか。敬介の当時の日記に首つり、鎖陰痛、嘔吐不止者、等のことは述べてありますが乳巖手術のことは書かれてありません。

これは青洲先生が老年になり乳巖の手術も積極的にやられなくなったのが原因でしょうか、或いは敬介が乳巖の手術に対してあまり興味を示さなかったのが原因でしょうか。この点博士の松木先生のご見解をお示し頂ければ真に幸いです。

(岩瀬 敬司)

〔岩波出版サービスセンター〕、東京都千代田区神田神保町二
—三、電話〇三—三二六三—七〇七八、二〇〇四年三月十七
日、三三二二頁、非売品〕

編集後記

八月十八日、新聞に衝撃的な記事が載っていた。「学会事務センター預かり金十六億円返還困難 東京地裁が破産宣言」(読売新聞朝刊)という内容である。本学会でも会員の年会費を預け、学会誌発行などの運営を学会事務センターに依頼している。▼この件に関して八月二十八日、本学会の臨時理事会が開かれ、七月二十一日現在の預かり金四十一万余円の金額は返還不能となるが、学会の顔である学会誌の発行に支障がないようにしたいとの意向が示された。今後も安心して投稿して下さい。▼学会事務センターの破産により、学会の事務をまた学会内部で取り扱うことになった。学会誌への原稿は順天堂大学に送って下さい。アクシデントがあり、五十巻三号の発行が遅れてしまい、深謝致します。本号は邦文原著一篇、英文原著二篇、研究ノート三篇、資料二篇を載せることができました。▼しかし、原著の投稿が少ないので、次号の発行に影響を与えている。特に英文論文の在庫がないのは頭が痛い。英文論文の数や量が日本学術振興会からの刊行補助金の大きな条件となっているという。今年は学会事務センターの預かり金返還不能とダブルパンチを受けた。役員や委員たちのさらなる努力は勿論だが、会員の協力も欠かせない。▼学会誌には、原著、研究ノート、資料の他に書籍紹介、文庫めぐり、広場というページも設けているが、最近原稿の集まりが悪くなっている。こちらの方も、会員の積極的な投稿を期待しています。

(蔵方 宏昌)